

広工大自動車部 悲願の初V

全日本学生ダートトライアル

創部61年 「地道な練習糧に」

広島工業大（広島市佐伯区）

自動車部が、全日本学生ダートトライアル選手権大会で初優勝した。本拠地の安芸高田市のサキットで全国の強豪を迎え撃ち、1964年の創部から61年で悲願を果たした。

（神田真臣）



大会を振り返る大山さんⓈ、藤原さんⓈ、寺尾さん

まで合計タイムの差がなく、より速い個人タイムを出した広島工業大が栄冠を手にした。

代表して表彰台に立った第3走者の4年藤原卓司さん(21)は全体2位の力走を見せた。「てっぺんの光景がめっちゃ心に染みた。メンバーに恵まれたおかげ」と感謝した。

部員は22人。タカタで月1、2回走り込む。6月の中四国大会を制して出場権を獲得し、マツダのデミオをコース専用のセッティングで仕上げ、本番に備えた。第2走者を務めた3年大山統輝さん(21)は「路面の感触が軽く、わだちもできるダートはスリリング。地の利に加え、映像チェックなど地道な練習が糧になった」と胸を張る。

大会は「テクニックスターシタカタ」で8月に開催。

「男子団体の部 新車両クラス」では、各地区代表の

12チームが、製造年代など

規定の条件の車両で砂利道

のコースを走り、ドライバ

13人の合計タイムを競った。

優勝を争った慶応大と

は、計測可能な千分の1秒

次回レースは来年度の中

四国大会。新たな車両も

導入する。第1走者だった

2年寺尾晋一さん(21)は

「市販車の限界に挑戦で

きるのが面白み。今後もし

位争いできるよう運転レ

ベルを上げたい」と意欲的

だ。